南 一 弘の

街を行く

第128回 国立競技場 *Japan National Stadium*

夢と希望は何をもたしたのか

東京オリンピックが開催され、大いに盛り上がりましたね。
小生は開催には反対で、今でもやるべきでなかったと思っています。
とは言っても開催されたら気分は一転です。日本選手団の活躍、とくに10代の若い選手の躍進ぶりに胸を躍らせ連日最高の感動を味わいました。昨今の暗かった世情を吹き飛ばす眩しいほどの明るい夢、希望を与えてくれたスポーツ。その力の大きさ・凄さを心の底から思い知らされた次第です。
われわれが五輪開催を喜び競技に感動していることなどお構いなしで、コロナ禍は勢いをつけています。政府は「不要不急の外出はやめて」と呼びかけていますが、国民がどれだけ聞き入れたのか。ほぼ耳を貸してない現実があります。必要なら外出してよい、では効果が見込めない。やっぱり小池知事が実行した「ステイホーム」、みな全員家にいろ、とお願いするほかないのでしょう。それもそれで考えもの。なぜなら人間の最もシンプルな行動が「街歩き」であり、社会生活を送るうえでの基本的行動だからです。それを規制するのはよほどの予測、計画、思い切りが必要だと思います。残念なことにコロナ禍は全てにおいてわれわれの上手で予測を上回ったようです。小生は本コラムで何回「街に行けない」と「街を行く」を往復したことか。また再び「街に行けない」のコラムに逆戻りとなってしまいました。コロナの感染が拡がってから一年半、ワクチン接種が加速してなお深刻な事態が続いています。毎度のことながら人流増加、集団感染、医療崩壊が話題となり、もう元の生活に戻れない、などといった恐い想像が掻き立てられてしまいます。

東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場。無観客であったことが残念

ところで話は変わって、写真は新国立競技場。東京オリンピックの象徴的建築物の一つ。建物は立派で、街周辺も美しく整備されています。
しかし、ご存知のとおりこの施設は計画段階から予算超過が問題視され建築家が変更されるなどケチが付けられていました。それがあって、本連載で真っ先に取り上げたくなる場所なのに、何だかはばかられ、いつの間にか訪問の機会を失していたのです。
このことからわかるのは、街のイメージは時々の世相に影響されるということ。世相次第で街を見る目のポジティブ・ネガティブがコロコロ変わるのです。街の面白さでもあるのですが、恐ろしいものでもありますね。言い換えれば、包み隠さず世間の姿を見せてくれるのです。主役は街ではなく、街を訪れる人ということなのでしょう。本連載のタイトルにあるように、街を「見る」だけでは意味がない。「街を行く」ことにこそ意義があるのです。
いつか遠慮なく街を行ける時がくるのを願います。

南 一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。